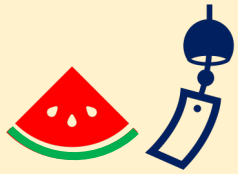
EAJC通信 No. 4 2022.7.20

発行：日本工学アカデミー中部支部
info.eajc@gmail.com
https://www-ie.meijo-u.ac.jp/~kawasumi/EAJC/index.html

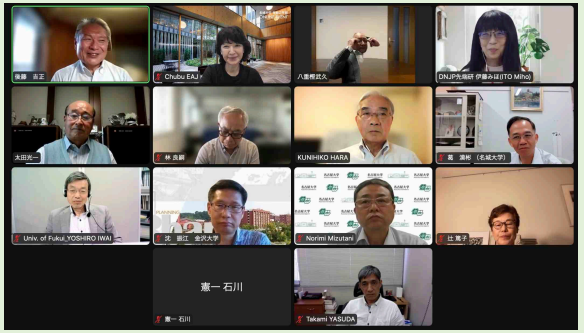
■第14回中部レクチャーは旬の話題、太陽光発電（3月18日開催）

第14回中部レクチャーは、講師に日本太陽光発電学会会長で名古屋大学大学院工学研究科教授の宇佐美徳隆先生をお招きし、「脱炭素社会実現を加速する次世代太陽電池への期待」と題して、オンラインセミナー形式で開催しました。日本は、 2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする脱炭素社会（カーボンニュートラル）の実現を目指していますが、次世代太陽電池はその実現の一役を担う重要技術として期待されています。本講演では、カーボンニュートラル実現に向けた世界的な潮流、大規模導入が進む太陽光発電セル・モジュールの世界的な技術トレンド、国内で進められているユニークな切り口の次世代太陽電池プロジェクト、そして、宇佐美・黒川研究室の最新の研究内容について、非常にわかり易くご紹介いただきました。レクチャー申込数は42名で、シリコン太陽電池の更なる進化の可能性、次世代太陽電池が実用化する時期と実用化に向けた課題など、最新の情報をお聞きすることができ、非常に有意義な講演会となりました。（伊藤 みほ）



■第4回井戸端会議は2つの井戸を囲み14人が歓談（6月7日開催）

貿易収支から見た日本の産業競争力の低下（太田会員）、中国清華大学に見るイノベーション推進機構と日本の大学との比較（沈会員）の二つの話題提供に対し、日本再生に向け、重たいけれども、しかしEAJC会員が考えるべきテーマとして生真面目な議論が交わされた井戸端会議でした。中国、米国、シンガポールをはじめ、諸外国の有力大学と比べて価値観や戦略性の圧倒的な後進性が目立つ日本の大学が、お仕着せの改革ではなく、若者やリベラルアーツの発想を果敢に取り込み、失敗も許す文化を創り、自らイノベーティブな機関として自己変革ができるか、そして国全体の研究力の強化を牽引できるかが「失われた30年」を取り戻す日本再生の鍵となるとの見方に落ち着いた次第です。14名が参加して大いに盛り上がった井戸端でした。
（原 邦彦）



■ハイブリッドがテーマの対談をハイブリッド配信（7月14日開催）

記念すべき15回目の中部レクチャーは、世界に影響を与えたプリウス開発をテーマに「ハイブリッド誕生とその後の25年を振り返り、自動車とモビリティ産業の未来を考える」と題して、中部の3会員（八重樫・原・林）の協力で実現しました（詳報はEAJ本部から配信予定のニュースをご覧ください）。

今回、聴講者はオンライン参加でしたが、登壇者は現地会場（名城大学）に集合して生配信するハイフレックス開催を試みました。発言者を自動追跡してカメラ映像をフォーカスするWeb会議用360度カメラMeeting Owlを導入し、3名が安全な距離を保ちつつ、対談の音声と映像をクリアに配信しました。93名が入室したZoomの裏側でマイナートラブル発生もありましたが、プリウス開発のように、中部支部の企画運営も根気よくアップデートを続けていきます。（川澄 未来子）